

小倉百人一首

◇次は『小倉百人一首』の和歌四首である。これらを読んで、後の問い合わせ（問1～5）に答えよ。

【I】

ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

紀友則

【II】

人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香にほひける

紀貫之

忍ぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで

平兼盛

【III】

恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか

壬生忠見

問1 【I】の和歌の説明として適當でないものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

この和歌は句切れなしである。

「ひさかたの」は、「光」を導く枕詞である。

「のどけき」は形容詞「のどけし」の連体形で、「花」を修飾する言葉である。

「しづ心」は、慌ただしく散り急ぐ桜を擬人化した表現である。

「散るらむ」の「らむ」は原因推量の助動詞で、花がなぜ散のかという理由を求める表現である。

【II】の和歌の作者についての説明として適當でないものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 土佐守となり、その経験を『土佐日記』で女性に仮託して残した。

イ 『古今和歌集』の撰者の一人である。

ウ 『古今和歌集』真名序の作者である。

エ 『三十六歌仙』の一人である。

オ 「寛平御時后宮歌合」など多くの歌合の詠み手となつた。

問3 【III】の和歌の傍線部①「色に出でにけり」の説明として最も適當なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア ある人が隠していることについて探り、その内容が分かつたということ。

イ 誰かに恋をすることで平穏な日常が乱されてしまったということ。

ウ 隠れて付き合つている恋人の存在がうわさになつたということ。

エ 秘めていた恋心が隠し切れずに顔色に表れてしまつたということ。

オ 恋しい相手の気持ちがだんだんと自分に向かっているのを知つたということ。

問4 【IV】の和歌の傍線部②「人知れずこそ思ひそめしか」の説明として最も適當なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 誰にも知られないように隠れて思い始めたばかりなのにということ。

イ 誰にも知られないうちに思い始めたのがよかつたということ。

ウ 誰も知らないような方法で思いを表現しようとしたのにということ。

エ 誰にも知られることなく恋をすることはできないということ。

オ 人は誰でもひそかに誰かを心の中に思つてゐるものだということ。

問5 四つの和歌のうち、【I】と【II】、【III】と【IV】について、それぞれ三人の人物が討論した。次は、その【三人の人物による討論の一部】である。これを読んで、後の問い合わせ（i～iii）に答えよ。

【三人の人物による討論の一部】（【I】と【II】について）

Aさん 【I】と【II】はどちらも「花」を詠んだ和歌だね。

Bさん うん。でも、和歌の内容から、Aということが分かるね。

Cさん そうだね。同じ「花」なのに、表現したいことによつてさまざまな意味を持つんだね。

【三人の人物による討論の一部】（【III】と【IV】について）

Aさん 【III】と【IV】はどちらも恋の歌だね。

Bさん この二首は、歌合で優劣を競つたものらしいよ。なかなか判定がつかなくて、最終的に村上天皇の意向をくんで【III】を勝ちとしたいみたい。

【語注】
1 いさ さあどうだろうか。

問4	問1		
問5	問2		
i			
ii		問3	
iii			
小倉百人一首			
年 組 番			
氏名			
評点			

- Cさん へえ。B。どちらが優れているかは、好みの問題なんじやないかな。
 Aさん でも、【III】が勝ちとなつたのなら、いいところがあるはずだよね。
 Bさん 二首の表現の違いに注目してみようか。
- Cさん それなら、Cね。でも、【IV】がいいと思う人もいたんじやないかな。やっぱり好みの問題だよ。
- i 【三人の人物による討論の一部】の空欄Aに入る語句として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。
- イア 【I】の「花」が桜の花であるのに対して、【II】の「花」は一般的な花全体を指している
 イイ 【I】の「花」が桜の花であるのに対して、【II】の「花」は匂いの強い梅の花を詠んでいる
 イウ 【I】の「花」は人の心を騒がせるものであるのに対して、【II】の「花」は人の心を湧き立たせるものである
 エエ 【I】の「花」は永遠の時を象徴しているのに対して、【II】の「花」は一瞬の時を象徴している
- ii 【三人の人物による討論の一部】の空欄Bに入る語句として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。
- イア 【I】の「花」は永遠の時を象徴しているのに対して、【II】の「花」は一瞬の時を象徴している
 イイ 【I】の「花」は永遠の時を象徴しているのに対して、【II】の「花」は一瞬の時を象徴している
 イウ 【I】の「花」は永遠の時を象徴しているのに対して、【II】の「花」は一瞬の時を象徴している
 エイ 【I】の「花」は永遠の時を象徴しているのに対して、【II】の「花」は一瞬の時を象徴している
- iii 【三人の人物による討論の一部】の空欄Cに入る語句として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。
- イア 【III】は詠み手が第三者との会話によって自分の恋心の度合いに気づいている
 イイ 【III】は病気になつたなどという大きさな表現が、恋心の深刻さを示している
 イウ 【III】は第三者に恋愛相談をしているところから、浮き足立つた感じが伝わる
 エオ 【IV】は自分の恋の成就のために、人のうわさを利用しているのがいかにも狡猾だ
 【IV】は失恋したことを、人がうわさを立てたせいにしているのが少し情けない

解答解説

小倉百人一首 〈50点〉

問1 ウ (6点)

解説

「適当でないもの」を選ぶ問題である点に注意する。

「のどけき」は、形容詞「のどけし」の連体形で、「」では、「春の日」にかかっている。よって、ウの内容が間違いであり、これが正解。和歌は、「日の光がのどかな春の日に、どうして静かな落ち着いた心もなく、桜の花は（慌ただしく）散つていくのだろうか。」という意味。

問2 ウ (6点)

解説

「適当でないもの」を選ぶ問題である点に注意する。

紀貫之は、『古今和歌集』仮名序の作者である。真名序は紀淑望の作とされる。きのよしむちよって、間違っているのはウで、これが正解である。

問3 エ (7点)

解説

「色」は「顔色」。「出でにけり」の「に」は完了の助動詞「ぬ」の連用形、「けり」は過去の助動詞「けり」の終止形で、ここでは詠嘆を表している。よって、「顔色に出でてしまったことだ」と訳せる。「顔色に出でてしまった」ものは、その後に「わが恋は」と示され、倒置になつてている。よって、エが正解。

問4 ア (7点)

解説

ア・イ・ウ・オは、「顔色に出でてしまった」ものが「自分の恋心」となつていないので、間違い。

問5 イ (8点)

解説

「思ひそめ」は複合動詞「思ひ初む」の連用形。「しか」は過去の助動詞「き」の已然形。これは、前にある「」の結びの形になつてゐるが、下二句と上三句が倒置になつており、「」の形で後に続く逆接の用法ととらえる。つまり、傍線部は、「誰にも知られないように、ひそかに思い始めたばかりなのに」という意味になり、それなのに露呈してしまつたということを述べている。よって、アが正解。

イは「よかつた」とあるのが間違い。ウは「人知れずこそ」を「誰も知らないような方法で」と解釈しているので間違い。エ・オは、全体的に傍線部の内容を正しく解釈したものになつていないので間違い。

問6 ハ (8点)

解説

空欄Aには、【I】と【II】の「花」がどのようなものかという説明が入る。【I】の「花」は、「春の日にしづ心なく」散るとあることからも、桜の花であると分かる。対して、【II】の「花」は、「にほひける」とあることから、梅の花であると分かる。よって、イが正解。

アは【II】の「花」は一般的な花全体を指しているが、ウは【II】の「花」は人の心を湧き立たせるもの」が、エは【II】の

「花」は咲くという点に注目している」が、オは【I】【II】いずれの内容も間違いである。

ア・イ・ウ・オは、「二つの共通点を正しく解釈していないので、間違い。

iii ア (8点)

解説

空欄Cには、【III】と【IV】の表現の違いが入る。iiで見たように、【III】は、第三者が詠み手に「物思いをしているのか」と尋ねるほどに、恋心が表面に出ているということを詠んでおり、【IV】は、「恋をしている」という私の評判」が立つたということを示し、それによつて詠み手の恋心を表現している。よって、【III】について正しく解釈しているアが正解。

イ・ウは【III】の、エ・オは【IV】の内容を正しく解釈していないので、間違い。